



みなさん、こんにちは。

今日は、業務紹介第10弾として、港湾分野のうち機械系の業務内容を、港湾局技術企画課新見補佐（入省8年目）より語ってもらいました！



新見補佐（入省8年目）

1. 港湾分野（機械系）の業務の国交省における役割を教えてください。

四方を海に囲まれる日本にとって、港湾は海上輸送と陸上輸送の結節点として物流や人流を支える交通基盤であるとともに、国民生活の質の向上や産業活動の発展、国際観光の振興等様々な役割を果たしています。様々な機能が集約された港湾の効果を十分に発揮するため、港湾分野では、港湾の整備・利用・保全・管理等に係る政策の立案・実施を行い、その時々日本が置かれた状況や国民のニーズに対応しています。港湾荷役機械の安全性確保や適切な維持管理、効率化・高度化についても、港湾を支えるために欠かすことはできない取り組みです。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

国際海上輸送の大半は、規格が国際的に統一されたコンテナを用いて行われており、産業の国際競争力の向上を図るため、コンテナターミナルの生産性を向上させることは極めて重要です。世界中のコンテナターミナルで効率を向上させる競争が繰り広げられていると言っても過言ではありません。

最近では、情報通信技術を活用した港湾のスマート化に取り組んでいます。世界的に貿易関連業務のデジタル化が急速に進展していることから、日本の港湾においても全国共通のデータプラットフォームを構築し、デジタル化を促進するとともに、取得・蓄積したデータを解析してヒトの作業効率の改善を図り、世界最高水準の生産性と良好な労働環境を有するコンテナターミナルの実現を目指しています。将来的には、港湾においてあらゆる情報がつながり、新たな価値を生み出す「サイバーポート」の実現も目指しています。



3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

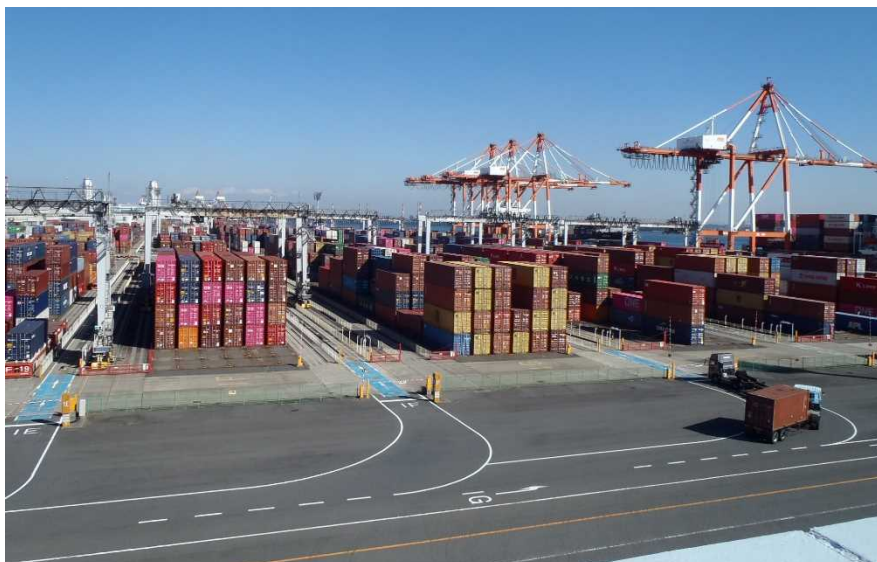
港湾のスマート化の取り組みのうち、データ解析による作業効率化に主に携わっています。例えば、日本の港湾における荷役作業は、匠の技ともいわれる熟練者のノウハウに支えられており、労働力人口の減少や高齢化といった社会問題が顕在化する中、コンテナターミナルの生産性を向上させるためには、ノウハウを次世代に確実に継承することが重要です。そこで、海外港湾で行われている単なる機械の自動化とは一線を画し、熟練者のノウハウとITを融合させることにより、日本の強みを活かした形で荷役作業の効率化を目指します。具体的には、熟練者の荷役作業に係るデータを取得・解析し、熟練者の判断基準や対応を把握することにより、効果的にヒトの作業を支援できるシステムを構築し、ノウハウの継承や更なるスキルアップに活用します。業務内容としては、これら取り組みの実施内容の検討や予算要求、体制の検討、現場への説明、発注業務の監督、成果やその普及方法の検討などを行っています。

4. 苦労する点や、やりがいについて教えてください。

港湾における作業を効率化させるためにはどのような手法があり、何が最適なのか、予算や実施期間等の様々な制約があるなかで、正解が見えない課題に対して解決策を模索する業務は、一筋縄でいくものではありません。港湾分野においては先進的な取り組みであるため、現場で取り組みの必要性がなかなか認めてもらえないことなどもあり、実施内容の変更やその調整に追われることも多いです。しかし、関係者の意見がまとまり、解決への道筋が定まってきた際は、苦労以上にやりがいを感じますし、この取り組みが政策の一端を担い、産業の国際競争力強化に裨益する、ひいては日本を豊かにすることを思えば、より良い成果を出すことに使命感を感じています。

5. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

自分が見てきたのは国土交通分野のほんの一部に過ぎませんが、国土交通省の業務ならではの魅力は数多くあると思います。いろいろな人に話を聞いたうえで、国土交通省の業務に興味をもってもらえれば幸いです。一緒に働けることを楽しみにしています。



コンテナターミナルの全体風景